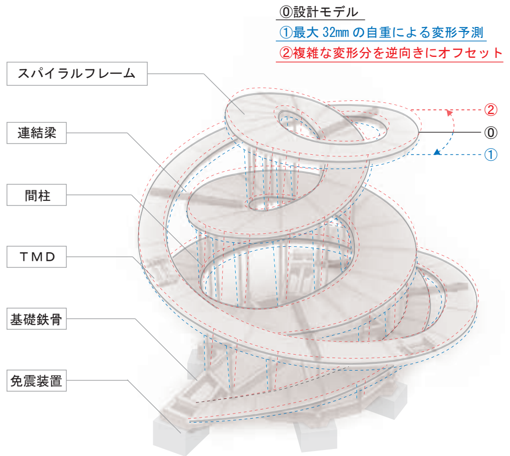
BCS賞

2016年 第57回
BCS賞受賞作品紹介

Ribbon Chapel

全景

礼拝堂



逆向きオフセット。螺旋フレームが自重で変形する量をみこして部材を変形と逆向きにずらして製作・取付し最終的に所定の精度を確保する。

選評

尾道市浦崎町に建つリゾートホテル内の施設で、主に結婚式用に使われる礼拝堂である。瀬戸内の島並みを三六〇度見渡す山の中腹に、周囲の大自然に溶け込みながら宙に舞い上がる優美なリボンのような姿形で建っている。絡み合う螺旋が屋根や庇、壁、床となりながら建築全体が構成され、言わば礼拝堂と展望台を合体させた施設となっている。これまでの礼拝堂のイメージからは考えられない大変にユニークな建築である。

このような建築が生まれた背景には、町の社会的ニーズを徹底的に掘り下げた事業プログラムとその構想がある。ホテルのある浦崎町は、かつて日本を代表する造船の町として好景気に沸いた時代もあったが、今では造船の過剰供給や新興国の台頭でかつてほど造船は盛んではなくなり町は活力を失いつつある。建築主は、地域の活性化のために小さな町を外に開き、造船だけでは生み出せない新たな活力を創造するために、複数のデザイン的に優れた建築を建てることによって、外から多くの人を呼び込み、町民が文化に目を開き、町を誇りに思える場所をつくり出すという構想をとりまとめた。その第一弾がこのRibbon Chapelである。

この建物の最大の特徴は設計者と構造設計者の緊密な協働から創造された構造のユニークさにある。単独の螺旋は左右にふらつき上下に振動する不安定な存在であるが、ふたつの螺旋が近接する四点を連結梁で相互に結び合うことによって生じるフープ効果と立体的なブレース効果を利用して互いに支え合い自立させるという、大変ユニークな建築・構造を実現している。ふたつの人生がひとつになる結婚、それは単独では不安定なふたりが結び合うことで支え合い自立する世界の構築を意味し、その有様をリボン状の螺旋によってシンボリックに構造化・空間化していると言えよう。ふたつの螺旋が一本のリボンとなる動線計画のもとに、ふたりが別々の螺旋を昇って最頂

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。
この賞は、1960年にはじまり2016年で57回を数えます。

< 2016年 第57回 BCS賞受賞作品 > 飯野ビルディング　大手町タワー／大手町の森　京都国立博物館 平成知新館　グランフロント大阪　高志の国文学館　ザ・リッツ・カールトン京都　住田町役場　東京スクエアガーデン　流山市立おおたかの森小・中学校、おおたかの森センター、こども図書館　日清食品グループ the WAVE　穂の国とよはし芸術劇場PLAT　八幡厚生病院本館　山梨学院大学国際リベラルアーツ学部棟　Ribbon Chapel　龍谷大学 和顔館
［特別賞］札幌市北3条広場・札幌三井JPビルディング
日本橋室町東地区開発：室町東三井ビルディング、室町古河三井ビルディング、室町ちばぎん三井ビルディング、福徳神社

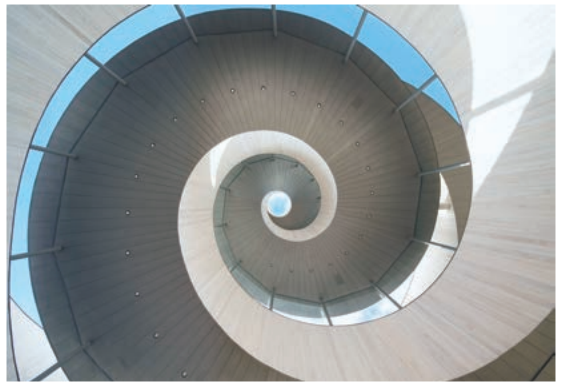
礼拝堂から大きなガラス窓を通して木々の隙間から海を望むことができる。

部で結婚宣言により結ばれ、その後一緒に螺旋を降りてくるという演出によって晴れやかな祝祭空間を創出している。そして螺旋下部には八四席収容の小さな礼拝堂があり、大きなガラス窓を通して木々の隙間から海を望むことができて、環境的にも心地のよい開放的な内部空間を実現している。

三次元に複雑に捩れた螺旋フレームは二本の鋼管および繋ぎ材、床鋼鈑で構成されている。二本の鋼管はコストと工期短縮のため高周波曲げ加工による二次円弧の置換材を溶接し、床鋼鈑に熱矯正を加えて曲面加工しながら溶接で鋼管と一体化するなど、地元の造船技術を援用した製作・施工に取り組んでいる。また螺旋床のコンクリート打設後のジャッキダウンに対する配慮など、現場施工においても細心の精度管理を行い複雑な難工事をやり遂げた施工者の貢献も極めて大きい。この建物は、建築主、設計者、施工者の見事な連携により実現されており、BCS賞にふさわしい作品として高く評価する。

［選考委員］

佐々木睦朗・六鹿正治・尾崎　勝



礼拝堂上部

工場製作中の床鋼板部材

建築主より

小さな町から世界を繋ぐ「シンボル」として

ツネイシLR株式会社
代表取締役
神原秀忠
Hidetada Kambara

建築当初の思いは、小さな町から外に向け、新たな活力を創造すること。地域の誇りに思える場所を作り出すところから始まりました。その中心は、幸せを紡ぐ結婚式。

竣工から3年経った今、リボンチャペルで生涯の誓いを立てるカップルは、地元を中心に、全国から、そしてニューヨーク、フランス、カナダ、香港など世界各国からの来訪も増加しています。当初の思いが確実に根を張り、実になってきていると感じています。

また、この空間を特別に感じ、音楽の演奏会やセミナーなどにも活用いただいており、地域社会に新たな文化の創造をもたらす場として、新しい可能性も感じています。

瀬戸内のシンボルとして、そして、人をつなぐ場として、更なる存在価値が広がることを期待しています。

設計者より

動線だけで構成された純粋な建築

NAP建築設計事務所
代表取締役
中村拓志
Hiroshi Nakamura

リボンチャペルの設計は「世界中から人が集まるような新しいチャペルを」という依頼から始まりました。我々は旅行者の訪問促進や地域活性化も視野に入れ、瀬戸内の島並みを360度見渡す小高い山の中腹に展望台を兼ねたチャペルを提案しました。

この建築では、単独では不安定なふたつの螺旋が結び合うことで自立する類のない建築を実現しています。これは結婚という行為を純粋に構造化・空間化したともいえます。とても小さな建築ですが、経路を周長約160mに引き伸ばして結婚式独自の体験性を拡大することで、新郎新婦の胸の高鳴りや参列者の思いに寄り添うことを目指したものです。

建築主の理解と協力、構造設計者や施工者のチャレンジ精神と完遂力、そしてその素晴らしい連携により成し遂げられた建築に設計者として携われましたことを大変嬉しく思っています。

施工者より

理想の形をめざして
～理想と現実との狭間での戦い～

株式会社ピーエス三菱
大阪支店 建築部
作業所長
檜垣 清
Kiyoshi Higaki

リボンチャペルは特殊な螺旋構造をもち、かつ直線と曲線・平面と曲面が入り交じる複雑な形状をした建築物です。施工関係者に理想の完成形を伝えるためには二次元の図面だけでは困難であったため、3D-CADや模型を活用し、職人との意思伝達を行いました。基礎鉄骨・1階スラブ・本体鉄骨については、自重による三次元的変形を逆向きにオフセットし、鉄骨建方後と外周の床コンクリート打設後との2回のジャッキダウンを行うため、各々想定値の50%ごとに分けて解析し建方精度を管理しました。仕上工事も都度、現場実測し理想値と実測値の微調整を繰り返すことで、理想形に近づけることができました。

建築主・設計者・施工者が一体となり、また多くの職人の協力のもと、モノづくりの原点に帰り、まさに手づくりで完成させた作品がBCS賞を受賞できたことを心より誇りに思います。

計画概要

建築主：ツネイシホールディングス㈱

設計者：中村拓志＆NAP建築設計事務所
アラップ

施工者：㈱ピーエス三菱

所在地：広島県尾道市浦崎町大平木1344-2
竣工日：平成25年12月15日

敷地面積：3,000㎡
建築面積：72㎡
延床面積：72㎡

階数：地上1階
構造：鉄骨造